

## アフガンでの敗北は米国のこの上ない屈辱 = マーチン・ジェイクス

中国共産党系の情報誌「環球時報」の国際版英字紙「グローバル・タイムズ」8月15日付は、タリバンによるアフガニスタの首都カブール制圧をうけて、マーチン・ジェイクス署名の以下の論評を掲載した。アフガン情勢にたいする中国の基本的な見方が反映している。以下はその全訳。

アメリカはアフガニスタンで面目丸つぶれになった。アメリカとのかいらい政権には国民の支持がなかった。タリバンにはあった。過去20年にわたった西側の介入主義はみじめな失敗に終わった。世界大国としてのアメリカの役割は、リビアやシリアは言うまでもなく、アフガニスタンとイラクで受けた敗北から決して回復しないだろう。アメリカは自分の強さを買いかぶりすぎて大きな代償を払った。

2001年には、自分の唯一の超大国体制が無限に続き、新世紀はアメリカの世紀になると考えていた。中国はアフガニスタンで同じような間違いをきつと犯さないだろう。中国はまったく異なる種類のパワーなのだ。

米国はアフガニスタンでタリバンによる歴史的な敗北に直面している。2001年に始まったアメリカ史上最長の戦争は、まったく不面目な結果になりつつある。タ

リバンは地方とすべての主要都市を占領し、今カブールを事実上陥落させた。これは 1975 年のサイゴンの繰り返しだ。ベトナムからの米軍撤退は 1972 年で、その後かいらい政権は 3 年間生き残ることができたが、カブールの米かいらい政権は、4 月の米軍撤退表明からわずか 4 ヶ月で崩壊した。これは、カブール政府とアメリカによる占領が、人民の支持をほんのわずかしかなかったことを示している。カブール政府の生き残りは、アメリカ軍と空軍次第だった。対照的に、タリバンは明らかに人々の間でかなりの支持を得ている。

この 20 年間は米国にとって悲慘なものだった。アメリカのネオコンの教義によれば、2000 年のジョージ・W・ブッシュの選挙は、新しいアメリカ世紀の始まりを画すものであり、冷戦終結後の米国による一極支配の時代はそのまま継続すると考えられていた。ところが 2008 年に 1931 年以来最悪の金融危機が起き、続いてイラクとアフガニスタンでの屈辱的な敗北につながった。2008 年のブッシュ退陣時までには、アメリカ一極体制は事実上死んでしまい、アメリカの卓越した軍事力に対する評判は損なわれていた。いまやアメリカは急速に衰退する超大国として広く見られており、かつての影はうすくなっている。

アフガニスタンでの敗北は世界中に大きな影響を与えるだろう。これによってアメリカの政治的、軍事的リーダーシップ能力、さらなる軍事介入をおこなう意欲、

そして同盟国としての信頼性とコミットメントに疑問符がついた。アメリカがアフガニスタンでこのような大きな誤算をし、壊滅的な敗北を喫することがありえるなら、東アジアや南シナ海での判断を誰が信用するだろうか。

軍事力は、1945 年以来、アメリカの世界的な役割の基本となっている。それは冷戦中にソ連を弱体化させる上で重要な役割を果たした。アメリカは、軍事力こそが世界を思い通りにする主要な要因であると長い間信じてきた。だからこそどの国よりも巨額の軍事費を費やしてきた。この哲学の最初の大きな挫折はベトナムだった。今、私たちはイラクとアフガニスタンの例を間のあたりにしている。このどちらでもアメリカは圧倒的な軍事的優位性を享受したが、しかし状況によってはまったく不十分であることが判明した。重要なのは、人民を味方につけることであり、軍事的優位性はいくらあっても、実際にはそれとは正反対で、人心を獲得することができないであろう。

もちろん、アフガニスタンを征服できなかったのは米国だけではない。昔から英国やソ連など多くの外国勢力が試みた。西側では、中国が次に手をだすのではないかとこの憶測がずっとあったが、中国がそんなに愚かになる可能性はゼロだ。実際、アフガニスタンに対するアプローチほど、中国と米国の根本的な違いを示すものはない。米国は圧倒的に武力によって国を征服しようとした。他に貴重な

ものはほとんど提供しなかった。極めて貧しい国の経済成長を促進する真剣な試みはなかった。対照的に、中国のアプローチは全く異なるだろう。軍事的関与はないだろう。人民解放軍（PLA）の役割もないだろう。中国は、長期的には、アフリカ、ラテンアメリカ、東南アジアと同様に、アフガニスタンの経済発展をどのように支援できるかを最も重視するだろう。開発が中国の特徴であり、一帯一路イニシアチブの中心にある。1949年以來中国が発展途上国であるという事実から、中国は、発展途上世界の問題を理解し、共感を抱いている。豊かな社会のアメリカには、途上国の問題に対する理解や関心がほとんどない。

中国はもう一つの重大な懸念を抱くだろう。アメリカはアフガニスタンで20年間も戦争を繰り広げ、11,000キロ以上離れた国と地域に深い分裂と不安定の種をまいたが、中国の関心は反対である。アフガニスタンと国境を接する国として、同国とより広い地域の安定をめざすだろう。とりわけこの地域は新疆の情勢に影響を及ぼすからだ。中国は何よりもまず、不安定と戦争が経済発展の敵であると考えている。

中国と米国のアプローチの根本的な違いは、もちろん、はるかに深い歴史的ルーツを持つ。アメリカの信条は、その誕生以来、アメリカ大陸と太平洋への拡張

であり、そして 1945 年以後は、70 カ国以上に約 800 の軍事基地を置いて世界中に拡大してきた。中国は対照的に、そのような歴史を持っていないし、軍事力を最重要とみなしたこともない。米国は世界的な拡大を追求してきたのにたいし、中国は自国の安定と発展を優先してきた。（了）

【翻訳 田中 靖宏】

